

ボイラー用水処理剤

清缶剤 ポリレジン

清缶剤の必要性

物質文明の発達、生活水準の向上に伴いボイラーは我々の文化生活ならびに工業上、不可欠なものとなっています。そのボイラーに使用するボイラー用水には水道水、天然水または地下水が使用されていますが、そのいずれも、多少異なった不純物を含有しているため、種々のトラブルを起こしています。特に蒸気ボイラーでは、水に熱を加えて蒸気を発生させますので、蒸気となるのは純水の H_2O (水)の部分で、給水中の塩類や不純物はボイラー内に留まり、次第に濃縮されスケールとなります。また温水ボイラーでも、加熱冷却部に塩類が固着(スケール)します。それはコーヒー沸しのヒーターに白い粉が溜まる現象と同じです。更に水質によってはボイラー内を著しく腐食させる場合もあります。

以上の如くスケールや腐食の弊害は

- ①ボイラーの事故、災害の原因となる
- ②熱交換不良
- ③汽缶材質の疲労度を増す(局部的加熱)
- ④燃料浪費(ランニングコストアップ)

となります。

然し、水処理をすることによって、スケールや腐食のトラブルは大幅に改善することができます。

その水処理には、イオン交換樹脂を用いた缶外処理と清缶剤を用いた缶内処理が考えられますが、前者の缶外処理では設備装置費用プラス樹脂代となり高価になりますが、後者の清缶剤を用いる方法では、特別の装置が必要ないためにランニングコストが極めて安くボイラー内を保護できます。尚、缶外処理を実施していても清缶剤の使用は必要です。



ポリレジンP-10
弱アルカリ性液体
NET. 20kg

CLEAN LIFE

清缶剤 “ポリレチン” の特徴

	形態	液性	金属イオン キレート化力	防 錆 力					スケール付着 防止力	毒性
				銅	黄銅	鉄	ステンレス	亜鉛		
P - 10	液体	弱アルカリ性	大	○	○	○	○	○	大	無

使用量（投入量）

A 硬水使用の場合（原水を直接給水）

スケール付着防止及びアルカリ度や缶泥調節作用リン酸根が必要（一定量）

○硬度50ppm前後の給水1tonに対し 100～300g

○硬度20ppm前後の給水1tonに対し 40～60g

B 軟水使用の場合（硬度成分が無い給水）

アルカリ上昇と腐食の防止

重合リン酸塩の使用でアルカリ調節とシリカによる硬質スケール付着の防止

○軟水給水1tonに対し 10～30g

使用上の注意事項

1. 清缶剤は膨張タンクへ投入または滴下するか、原水タンクと給水ポンプの間に滴下混入装置を取り付けて注入します。
2. 鉄分の多い水や、塩素イオンの多い水または既成スケールの付着しているボイラーでは鉄錆やスケールによって清缶剤の消耗が甚だしいため使用開始より3～4ヶ月間は規定量の2～3倍使用し、ブロー量も増す必要があります。
3. 清缶剤の使用量が不足したり長期間清缶剤を使用せずに運転しておりますと、スケールが付着して、化学洗浄が必要になります。その場合は規定投入量より5～10倍使用して、スケールを軟化して、除去を容易にしてください。
4. 清缶剤を使用しますと、ボイラー用水が白濁することがありますが、この場合には規定量より2～3倍投入してブロー量を増してください。
5. 給水タンクがセメント張りの場合は防水塗料を塗るか、内面に鉄板を張ってください。
6. ボイラーを休止している間は満水とした後、清缶剤0.1～0.5%添加して防錆して下さい

その他

A. 休缶中のボイラーの防蝕として

ドラムを満水密閉にし、清缶剤を保有水量1tonに対し、約500gを投入して30分間焚き、消火後、冷水になったら再度満水状態にします。

B. 清缶剤を初めて使用する場合

保有水量1tonに対して、約1,000gを投入してください。

基礎投入後と3日間ノーブロー、4日目より通常運転に入ってください。

お問い合わせは_____

 株式会社クリーンライフ

〒811-2301 本社／福岡県糟屋郡粕屋町上大隈265-1
phone 092-938-7887 fax 092-939-0373
工場／福岡県糟屋郡篠栗町大字篠栗357-2
URL <http://www.cleanlife.net>